

更に一時間程進むと水はなくなり涸沢となる。そして、一三時一〇分ヤブこぎに入る。傾斜はきつくなった。二分程で榎森から続く尾根上の廃道に出た。廃道ではあるが割合とはつきりした踏跡がついていて、二時間三〇分程の下りで峠駅へつく。

(記)

[タイム]

峠駅八・一〇―出合九・一〇―二俣一〇・四〇―沢終
了一三・二〇―稜線廃道一四・〇〇―峠駅一六・三〇

上三階沢 (仮称)

一九八〇年九月十五日

◆天気(快晴)

私達、これから長根沢の支流、上三階沢(仮称)を登り、三階平の西を流れる沢を下る予定です。目指すは八二一坪のピークであり、この二つの沢はそこを源流として、羽黒川に三階平の東と西を流れて合流するのです。

私達は峠駅より奥羽本線を横切り、線路づたいに米沢方面へ進む。線路の上を歩くのは妙な気分である。長根沢の入口を見つける。沢の音を間近にきく。送電線に注



上三階沢(仮称)出合

意しながら沢へ入る。

沢を少し登ると上三階沢の出合です。今日は右へ右へ行けばまちがいないはず。五坪の滝がかかっています。まん中を登れないことはないのだが、私の経験の浅さを考えてくれたのか、半沢さんは右側にルートをとりました。

この先は一〇二坪の滝ばかり。水はさほど冷たくもありません。前日雨が降ったのだろう。ところどころにかれ草がたまっている。歩きにくい。木々がせまってきて、ヤブこぎのようになった。

一時、水がかかる。この辺より傾斜が急になる。歩いている所はまるでドロ沼のようだ。

私達は八二坪のピークを目指しているつもりだった。しかし、ここではすでに九〇四坪のピークに向かっていた。結局、予定した沢とは別の元小屋川を下ることになる。

〔タイム〕

峠九〇〇—長根沢出合二〇〇—水かれ一—〇
 〇—稜線一—三〇

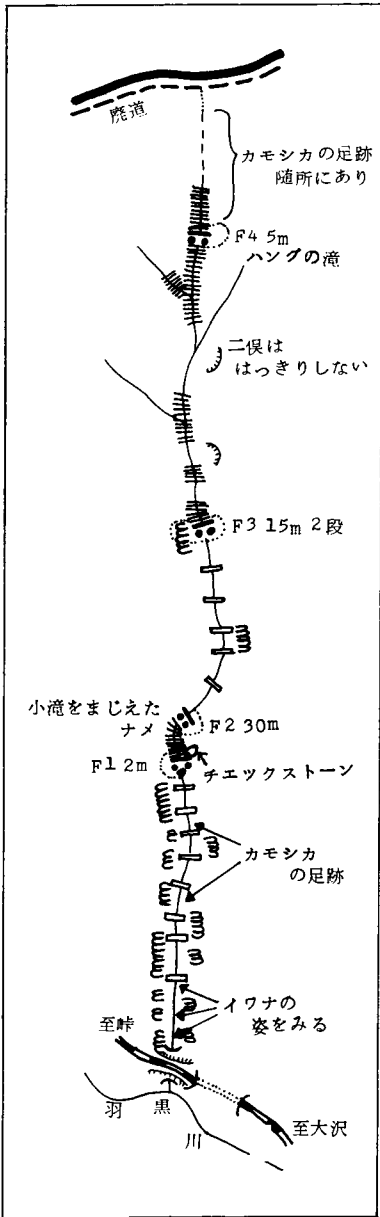
(記・)

巖石沢

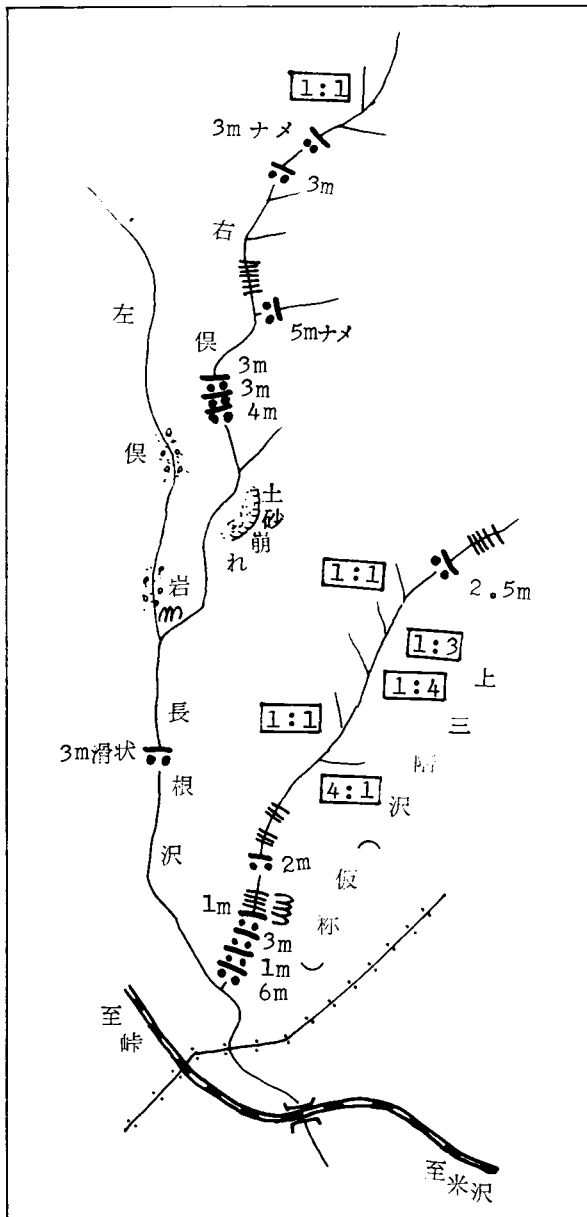
一九七七年七月三十一日

◆天気(晴)

峠から線路を少し歩いて巖石沢に入る。水量は少なく、歩きはじめたらすぐイワナの姿が見えた。二〇分間の間に三匹。結構いそうだ。二〇分で砂防ダム。ここからは連続する砂防ダム越えだ。一つ越えたとと思ったら五分と歩かないうちに次のが現われる。合計八個を数えた。



巖石沢 (作図: i)



長根沢，上三階沢（作図：菅）

合まで約四〇分。
 ワラジを身に付け九時一〇分遡行開始。沢は滑沢で水はきれいであった。一五分位行くと支流にぶつかる。支流には約六割の滝がかかっていたが、本流には滝はない。浅瀬にはイワナが泳いでおり、三匹捕獲してビニール袋

に入れた。
 一〇時四〇分二俣を通過。これより約一時間遡行して昼食とする。ここまでは傾斜もゆるやかで滝らしいものは見当らなかつた。またここからは水量も極端に少なくなつた。